

「それ、おもしろいね。」

教育研究所所長 佐伯 胖

私が米国の大学院に留学中、つたない英語で私なりの考えを話したとき、しばし返ってきたのが“*That's quite provocative!*”という言葉であった。“*Provocative*”を英和辞典で調べると、「怒らせる」、「挑発的」など、あまり良い言葉ではないような訳語もついているが、実際に私が経験した会話場面では、これは最大級の褒め言葉だった。無理に丁寧な日本語で和訳すれば、「とても考えさせられる」、「さらに分かりたいことが次々生まれてくる」……、というようなことで、私たちがよく使う言い方で言えば、「それって、おもしろいね。」という表現になるだろう。

この「おもしろいね」という場合の「おもしろさ」というのは、まさに“*provocative*”である。つまり、いろいろな可能性を含んでいて、あれこれと「考えさせられる」ことであり、「わかりたい、さらにおもしろいことがありそう」なことである。良い本に巡り会ったとき、「この本、おもしろい！」という感想をもつときも、これに当たる。「それっきりにしておくには、もったいない。」という思いも伴う。つまり、新たな探求をしないではいられなくなるのである。つまり、「ますます、おもしろくなりそう」なのである。そういう「おもしろさ」感覚は、大いに大切にしたいところである。

冒頭で、私が他人からこの言葉を聞いたのは、米国留学中だったと述べた。それは、残念ながら日本ではめったに言われたことがないという事でもある。米国では学会その他の研究集会では、“*That's quite provocative!*”という言葉は盛んに飛び交っており、まさに議論が「盛り上がり」くるのだが、我が国でさまざまな学会発表や研究集会に参加してきたが、「それ、おもしろいね。」という発言はほとんど聞いたことがない。もしかしたらこの日本語表現は、どこか相手を小バカにしたような意味合いを含むか、あるいはそういう意味合いだと解釈されるのがこわいかもしれない。たしかに日本語では目上の人に向かって「それって、おもしろいですね。」というのは、ややばかられるかもしれない。そうだとすると、同僚や(先生として)子どもに対するときは、もっと、「それって、おもしろいね！」という言葉がもっと盛んに出してもらいたいところである。ちなみに、私はゼミなどでは教え子に、「まさにそれだ！」と思ったときは、すかさず「それって、おもしろいね。」と言うようにしている。

本紀要を読まれる読者の方々も、ぜひ、「おもしろそうなこと」をみつけて、「これ、おもしろいね！」と心で叫んでいただきたい。